

# 長野県図書館協会

## デジタル版 小中学校図書館部会だより

第 134 号 (24 年度)

### 平成 24 年度小中学校図書館部会の活動を振り返って

長野県図書館部会小中学校図書館部会 副部会長 後町小学校 木内 昇

本年度の長野県図書館協会小中学校部会は、『豊かな学びの中核となる学校図書館～司書教諭と学校司書との緊密な連携を図って～』をテーマに、4つの重点目標を運営方針として活動を行ってきました。

重点目標の一つ『県図書館協会と連携を図る中での図書館大会の推進』では、図書館大会の開催都市である飯水支部と綿密な連携をとりながら準備を進めてきました。

具体的には、午後の研究協議について『司書教諭の仕事』『司書教諭と学校司書』『学校司書の仕事』『読書指導の実践』『利用指導の実践』『学校図書館の運営』の6つの分科会の準備と運営にあたってきました。各分科会では、レポートの作成と発表、司会、記録等を支部や司書教諭委員会・司書委員会等をお願いしましたが、それぞれの分担に対して積極的に取り組んで頂くことができました。分科会での実践発表は、明日からの自校の図書館教育に生かせるヒントがたくさん詰まった素晴らしい内容でした。

また、ワークショップを取り入れた分科会では、司書委員会と司書教諭委員会の先生方が事前に何度も打ち合わせをして準備をしてくださいました。

『レポート発表を聞くだけでなく、児童生徒の学習活動を自分たちが実際に行うことで問題点や有効性が見えてきた。また、グループで気軽に問題点等を話し合うことができた』『実践発表やグループ討議での情報交換は、それぞれが心におちるものがあった。司書、司書教諭、図書館教育係が互いに相談し連携していくことで図書館活用が一層図られると感じた』などの声が参加者から寄せられた。

なお、午前の山根基世さんの講演も大変好評でした。山根さんと学校図書館との関わり、地域のコミュニティの場としての図書館の位置づけなど今後の図書館のあり方について大変示唆に富んだお話を頂くことができました。

各地区学校図書館教育研究会は、中信地区が安曇野支部、南信地区が上伊那支部の計画により実施されました。地域の特性を生かした授業公開や講演会、研究協議があり大変充実した会となりました。

この他の活動として、読書感想文及び読書感想画コンクールの作品募集を行いました。応募校数についてはここ数年の減少傾向に歯止めがかかりました。作品数も昨年度に比較し増加しました。各支部の呼びかけや各校の取り組みに感謝申し上げます。なお、読書感想画も同様であります。審査基準をふまえた書き方の指導を積み重ねて頂くことが大切と感じています。

最後になりましたが、本年度長野県図書館協会小中学校部会の諸活動にご協力頂いた皆様に心より御礼申し上げますと共に、来年度大町市で行われる第 63 回長野県図書館大会へのご支援ご協力お願い申し上げます。活動報告とさせていただきます。

## 支部だより

### 大北支部

#### 大北支部の取り組み

大北支部代表 池田小学校 中村 豊

今年度の大北支部の活動は、来年度に控えた長野県図書館大北大会の準備としての活動を行ってきました。図書館職員の会との連携を深め、学校司書教諭や国語担当者などの学校図書館係から意見や要望を聞き、この大会を機に、学校の図書館教育に何らかの役に立てればと願ってまいりました。

広く図書館教育といっても、様々な団体があり、学校によってその構成員も違うので、なかなか意思の疎通は難しいです。それぞれの団体、職種毎の悩みや課題はそれぞれ違うものであり、図書館教育への願いや期待も違っていることを知りました。また、学校によっても図書館教育のとらえ方は違うので、まとまりのある成果は出しにくいものです。

今年度の重点の一つは、2月24日の大北図書館協会主催の「大北図書館の集い」に参画することです。今まで、折り紙教室や歴史・風俗探訪などが中心だったこの集いを、今年度は「教科書と文学作品」というテーマで開催したいと思っています。教科書も素晴らしい絵本であり、書籍です。その魅力を多くの人に知ってもらえるとありがたいです。絵本と教科書はどこが違うのか。なぜ違っているのか。そんなところから興味を抱いて、絵本と教科書の良さを知ってもらえるとありがたいです。図書館司書の先生方の多くは、教科書にどんな作品があるかを知ってはいるものの、なかなか中身を知ることはありません。また、学校職員も担当学年以外の教科書についてその中身を知ることはありません。話題となった小学校5年生の「稲積の火」や絵本と違う小学校1年生の「大きなかぶ」等を取り上げ、その魅力に迫りたいと思っています。

来年度は県の図書館大会で追われると思いますが、様々な団体や仲間と連絡を取って、つながりを深めていきたいと思っています。

### 下伊那支部

#### 下伊那支部の一年間を振り返って

下伊那支部代表 上久堅小学校 今村貴美子

下伊那支部は、小学校42校、中学校21校、小中併設校1校、計65校、及び公共図書館9館、公民館図書館5館で構成されています。本年度は次のような事業を推進しながら、図書館の充実と研修に努めました。

#### 1 図書館担当者会・実技講習会 6月19日(火) 参加者23名

昨年度実施した「図書館運営に関するアンケート」結果から下伊那の学校図書館司書の配置率は極めて低く、図書館担当者が苦勞している様子が浮き彫りにされました。そこで、経験年数3年未満の先生方を対象に今年度初めて会を実施しました。実務を学ぶと共に、担当者間のネットワーク作りにもつなげることができました。

#### 2 学校図書館学習会 8月1日(水) 参加者47名

「子どもたちにどんな本を手渡していったらよいか」

- ① 絵本編 講師 鈴木佳代子氏(日本子どもの本研究会選定委員)

② フィクション編 講師 竹田裕子氏（同・杉並区小学校司書）

2011年から2012年前半に発刊されたタイムリーな本をたくさん紹介していただき、選書の参考になりました。

3 長野県読書感想コンクール作品募集と支部審査

4 情報誌「らいぶらりめぐり」の発行

No.12「図書館担当者会実技講習会報告」

No.13「児童生徒が利用したくなる図書館作りをめざして」

No.14「低学年の図書館利用指導をどのようにしていったらよいか」

5 県図書館大会へ参加 10月13日（土）

6 南信地区図書館教育研究会へ参加 11月16日（金）

○ 上記の他に、新しい教科書に対応した「授業で使えるブックリスト」の作成に取り組み始め、来年度以降続けて作成していく予定です。

## 図書館職員等ステップアップ研修 参加報告

### 「新指導要領と学校図書館」に参加して

南条小学校 荒井 千雪

午前は牛山圭吾先生の「図書館が変われば教育が変わる」という講義で、教科書改訂により本の紹介が増え、読書の重要性が更に高まった。読み聞かせは「聴く力」を育て、それは学力にも関わる。何より心が育ち新指導要領の理念「生きる力の育成」に通じる大事なものである。調べ学習でも、図書館からの積極的な提案が必要だと教えて頂きました。

午後は堀内京子先生による読み聞かせと語りの大切さ、絵本の見方や選び方の講義でした。学校ですぐに使える読み聞かせの参考書の紹介もあり良かったです。その後数人に分かれ読み聞かせの実演と感想を出し合いました。全体発表で「良い本とは何か」という質問に「文中に楽しい、悲しいという言葉はないが、動きでそれがわかる本」という牛山先生の言葉が印象的でした。改めて司書の仕事の大切さを見直す良い研修会になりました。

### 「図書館ステップアップ講座研修」に参加して

辰野中学校 上島 陽子

以前から著書を拝読させていただいていた、東京純心女子中学校の遊佐先生が講師をしてくださるので楽しみに出掛けました。「図書館がハブになる～・・・」という魅力的な演題の通り充実した講座内容で本当に勉強になりました。教科との協働では、図書館での調べ学習の時間が多いこと、図書館としての方針がしっかりしていることにまず驚きました。課題解決のために6ステップの段階がはっきり示されていることや図書館が作成するワークシートの完成度の高さに、またまた驚きました。ワークシートは教科が作るものと、どこかで甘えのあった自分の姿を反省するいい機会になりました。レポート記入の際には、資料を写し取るだけではないことや、自分が理解でき、人に説明できる言葉に置き換えること、さらに、文章を書く条件までも生徒にきちんと伝え、レポート作成の知識を、図書館がどう育てるのかも学びました。資料に書かれてあった学校図書館機能の発達段階の最上段の「学校の学びの拠点となる」を目指し奮起しなければいけませんね・・・。

## 読書感想文コンクール及び読書感想画コンクールの審査結果から

芋井小学校 西尾邦彦

平成24年度、第35回長野県読書感想文コンクールについて報告します。  
各学校から応募された作品について各支部審査・県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：364校	◇応募作品数：5211点
◇県入選（県応募）作品数：639点	◇県入賞作品数：208点
◇中央審査会応募作品数：12点	*全て小・中学校の合計

本年度は、応募校数で昨年度比32校、応募総数で1000点近く増ということで、各支部の呼びかけ、各校の取り組みに感謝します。また、審査段階では、課題図書を精読し、多くの作品を審査いただいた支部・県審査員の先生方にも感謝申し上げます。そんな審査員の先生方から課題としていくつか上がった中から、「規定字数」について、『制限字数以内・8割以上』の点のみここでお願いし、来年度に応募作品に期待したいと思います。

続いて、第24回読書感想画コンクールについて報告します。  
各学校から応募された作品について県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：17校	◇応募作品数：187点	◇県入選作品数：38点
◇中央コンクール応募作品数：6点		*全て小・中学校の合計

読書感想画の取り組みは、感想文以上に難しいところがあります。そんな中、小学校では学級単位で、中学校では部活動制作として、応募していただきありがたいことでした。

両コンクールに応募していただいた児童生徒の皆さん、応募に際してご尽力いただいた皆様に感謝いたします。来年度も子ども達の豊かな読書生活のさらなる広がりを期待します。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第134号  
発行日 平成25年2月28日  
発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内  
長野県図書館協会 小中学校図書館部会（代表 関間昇）